

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医務費

事業名 看護人材現任者研修事業費 (地域医療介護総合確保基金)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 看護係

電話番号：058-272-1111(3276)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額： 1,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,000	0	0	0	0	0	1,000	0	0
要求額	1,000	0	0	0	0	0	1,000	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・看護人材のキャリアアップ研修については、看護協会といった専門機関や専門業者で実施しており、看護師等は所属する医療機関等で受講料や旅費の支援を受けて参加するほか、休日を利用して個人で参加する者も多い。

・県全体の看護人材の質向上には、多くの看護人材が参加できるよう、全国的に注目されている研修講師等を招へいし、最新の看護事情に関する研修を実施することで、県として看護人材のキャリアアップの機会を提供していく必要がある。

(2) 事業内容

・教員及び実習指導者等教育者を対象とした研修の実施。(教員各30名 3回、実習指導者80名 1回)

・高齢者施設等に勤務する職員等(准看護師メイン)対象とした研修の実施。(40名程度、2回)

・助産師の実践能力向上のため研修の実施(30名程度、2回)

・研修方法：講義、演習

(3) 県負担・補助率の考え方
地域医療介護総合確保基金

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	1,000	研修実施にかかる委託料
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

・長期構想

I－2 地域医療の体制と医師・看護職員を確保する

・医師・看護職員を確保する

(2) 後年度の財政負担

地域医療介護総合確保基金

(3) 事業主体及びその妥当性

看護人材現任者研修事業は、看護人材の質確保のために必要な施策であり、長期構想でも位置づけた県の役割であるため、研修会を実施することは妥当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内の看護人材の質の向上、維持のためには職務に対するモチベーション維持が必要であり、キャリアアップの機会を継続的に提供する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
研修受講者数		292人	310人	310人	310人	81.1%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 教員及び実習指導者等教育者 4回 150人（定員230人） 高齢者施設等に勤務する准看護師 2回 受講者38人（定員80人） 県内診療所等に就労する助産師 2回 受講者48人（定員50人）</p>
	指標① 目標：360人 実績：236人 達成率：65.6 %
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 教員及び実習指導者等教育者 4回 154人（定員230人） 高齢者施設等に勤務する准看護師 2回 受講者72人（定員80人） 県内診療所等に就労する助産師 2回 受講者26人（定員50人）</p>
	指標① 目標：360人 実績：252人 達成率：70.0 %
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 教員及び実習指導者等教育者 4回 受講者156人（定員230人） 高齢者施設等に勤務する准看護師 2回 受講者103人（定員80人） 県内診療所等に就労する助産師 2回 受講者33人（定員50人）</p>
	指標① 目標：290人 実績：292人 達成率：100.6 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	県内の看護人材の質の向上、維持のためには職務に対するモチベーション維持が必要であり、キャリアアップの機会を継続的に提供する事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	受講者からは、日ごろの教育活動に役立つ内容であったとの評価を得ており、研修によっては定員数に近いものもある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	令和4年度から看護教育者等継続教育研修事業の実施団体に委託することで、効率的に実施できる。専任教員や助産師研修は県内の人数も考慮し、令和7年度から定数の調整を行った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 より良い内容とするためには、学習した内容の実践状況の把握や課題解決へのフォローが必要。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和5年度より、看護教員向けの階層別研修について、階層を超えて研修を可能にしたことで、受講者が課題に即した研修を受講することが可能である。また、令和3年度より助産師の実践能力向上のため研修を実施しており、専門性を発揮することで、地域社会に広く貢献することが可能である。受講者の実践能力を向上することで職務のモチベーションの維持や自信につながり、人材確保につながる。 しかし、近年専任教員や実習指導者の研修の定員が満たないため、研修の対象者を広げようという検討が必要である。各研修終了後のアンケートを参考に、効果を検証しながら継続を検討する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	